

1. 基本情報						
事務事業番号	02441	事務事業名	学校間ネットワーク管理運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課長	安栖 賢一
施策名	001	立志と将来への希望を育む学校教育の充実			グループ	管理グループ
基本事業名	003	安全で安心な学校づくりと食育・体育の推進			内線番号	3071
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 平成18年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
目	09	メディアセンター費		根拠法令・条例等	霧島市メディアセンターの設置及び管理に関する条例等	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	特になし	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)
 市内各小・中・高等学校と教育委員会、各支所地域振興課を仮想専用線(不正アクセスを防ぎ安全な通信を可能にするネットワーク技術)によるネットワーク(きりしまEネット)で結び、各種調査物の配布や収集、情報交換や情報共有を可能とするシステムを整備し、管理・運営を行う。また、TV会議システム(インターネットを通じて画像・音声をリアルタイムで共有する技術)を活用して、児童生徒同士の交流や遠隔授業等、学校間での交流ができる環境を整備し、管理・運営を行う。

活動指標(事務事業の活動量)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)
ア ネットワーク機器接続学校数	校	49	49	49	49
イ 長距離無線LAN機器設置学校数	校	8	8	0	0
ウ ネットワーク機器接続教育委員会箇所数	箇所	14	14	14	14

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)
ア 市立学校児童・生徒・教職員	市立学校児童・生徒数(小・中学校・中央高校)	人	11,711	11,802	10,961	11,280
イ 市立学校児童・生徒・教職員	市立学校教職員(小・中学校・中央高校)	人	991	970	966	970
ウ						

意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(目標)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)
ア 効率的な情報の共有や質の高い学校間の交流ができる	学校間交流回数	回	35	35	59	60
イ 効率的な情報の共有や質の高い学校間の交流ができる	総送受信回数	回	55,484	45,000	66,110	45,000
ウ						

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)
 スクールガードリーダーや防犯ボランティア等との連携をはじめ、地域・学校・家庭が一体となって、児童生徒の登下校時の安全確保に努めます。
 また、耐震化や老朽化対策を通じて、学校施設の長寿命化を図るとともに、社会環境の変化等に伴う多様なニーズに即した施設整備を行うことにより、安全で質の高い学校づくりを推進します。
 さらに、生涯にわたって健康的な生活を送るために必要な体力の向上や生活習慣の形成、食育の取組を通じて、健やかな体を育みます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和3年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)
 ・アプリケーション配信システムやすべての接続先からアクセス可能な共有フォルダ等の活用による業務改善を行う。
 ・WEB会議システムの活用により、遠隔授業や研修会、講演会を実施する。
 ・新学習指導要領や教科書の改訂に対応した教材の配信や情報発信を行う。
 ・学校間ネットワーク機器等の賃貸借及び保守の契約更新検討を行う。

4. 事業費の推移

事業費	単位	2年度	3年度		4年度	5年度
		決算	当初予算	決算	当初予算	計画
国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	5,184	7,848	5,777	7,470	7,470
事業費	千円	5,184	7,848	5,777	7,470	7,470

5. 令和3年度の実績及び成果

(1) 令和3年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載> ・インターネット接続設定変更(光ブロードバンド)を18校に行った。 ・各学校から通信障害やネットワークの不具合の連絡を受け、関係業者へつないで対応した。 ・学校間ネットワークを利用したオンライン研修会、学校間交流を行った。	(2) 令和3年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載> ・市内全ての小中学校の光ブロードバンド化整備が完了した。 ・通信障害やネットワークの不具合に対し、関係業者と連携しながら迅速に対応することで、学校間ネットワークの利用数増加につながった。 ・新型コロナウイルス感染症対応のため、オンラインでの研修会を行うことができた。
---	---

事務事業 番号	02441	事務 事業名	学校間ネットワーク管理運営事業	担当部	教育部
				担当課	メディアセンター

6. 振返り <SEE (check)>			
A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？	
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である	
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である	
	結びついていない	見直す必要がある	
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？	
	向上する余地はかなりある	影響がある	
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある	
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない	
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？	
	削減できない	削減できない	
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある	
	削減できる	削減できる	
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？		
	公平・公正である		
	見直す必要がある		
総合評価判定基準		総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討		A	学校の情報機器や端末は増加してきており、文書等の送受信や情報共有、遠隔授業への需要は年々高まってきている。学校間ネットワークを整備し、効率的な情報共有や質の高い学校間の交流を行うことは、学校における地域・規模による情報格差を解消するとともに、教員の校務の負担を軽減し、教育行政の組織及び運営を円滑に行うことにもつながる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan)> (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 性 (成 果)	拡 充			
	維 持			レ	
	縮 小				
	休廃止（統合含む）				
		皆 減	縮 小	維 持	拡 大
コスト投入（予算）の方向性					
(2) 令和 4年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> 学校間グループウェアの契約期限に伴い、円滑な更新作業を行う。 WEB会議システムによる遠隔授業や研修会の開催の充実を図る。 GIGAスクール構想による各学校の実践事例等の発信や紹介を行う。 長距離無線LANの機器撤去を行う。 				
(3) 令和 5年度の方向性 (具体的な取組)	<ul style="list-style-type: none"> 学校間グループウェアの活用促進を図る。 WEB会議システムによる遠隔授業や研修会の開催の充実を図る。 GIGAスクール構想による各学校の実践事例等の発信や紹介を行う。 学校間ネットワーク機器等の賃貸借及び保守の契約更新を行う。 長距離無線LANの機器撤去を行う。 				

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者	職・氏名
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 性 (成 果)	拡 充	
	維 持		
	縮 小		
	休廃止（統合含む）		
		皆 減	縮 小 維 持 拡 大
コスト投入（予算）の方向性			
(2) 総評			

1. 基本情報						
事務事業番号	02442	事務事業名	メディアセンター管理運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課長	安栖 賢一
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3071
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 平成 8年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
	目	09	メディアセンター費		根拠法令・条例等 霧島市メディアセンターの設置及び管理に関する条例等	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	特になし	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)
 教育メディアの活用促進を目的として、パソコンやスマートフォン、タブレット等に関する各種講座を開設するとともに、視聴覚メディアを利用した上映会を実施している。また、ICT体験コーナーや一般開放コーナー、研修室などの学習環境を整備しており、パソコンやネットワーク、視聴覚機器等の修繕や保守点検を行っている。
 ・開館時間 午前9時~午後9時
 ・休館日 年末年始(12/29~1/3)、機材・資料整理日(年間10日以内)

活動指標 (事務事業の活動量)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (見込)	令和 4年度 (見込)	令和 5年度 (見込)
ア メディアセンターの開館日数	日	341	355	355	355
イ AV(視聴覚ソフト)資料保有数	本	9,271	9,300	9,506	9,530
ウ 各種鑑賞会等開催数	回	77	100	101	100

(2) 事務事業の目的

対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標 (左記 対象の大きさを表す指標)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (見込)	令和 4年度 (見込)	令和 5年度 (見込)
ア 市民	人口	人	124,882	123,908	123,066	123,639
イ						
ウ						

意図 (対象をどうしたいのか)	成果指標 (左記 意図の達成度を表す指標)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (目標)	令和 4年度 (目標)	令和 5年度 (目標)
ア メディア(情報記録媒体、視聴覚ソフト等)を利用して、欲しい情報を得られる	開放コーナー利用者数	人	9,540	10,000	10,316	11,000
イ メディア(情報記録媒体、視聴覚ソフト等)を利用して、欲しい情報を得られる	各種鑑賞会等鑑賞者数	人	494	550	465	600
ウ						

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)
 多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和 3年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)
 ・メディアセンター整備計画の推進と、計画的な機器更新を行う
 ・GIGAスクール構想実現に向け、教師対象の研修講座や児童生徒対象の各種イベントを実施させる
 ・WEB会議システム等を活用した研修会や講座、会議の実施について情報提供を行う
 ・パブリックディスプレイを活用して、オリンピック等のイベントや、地域の情報を発信する
 ・新しい生活様式に対応した利用ができるよう環境の改善や、WEB会議システムで活用できる機材(カメラ、マイク、スピーカー)の整備を検討する
 ・電波法関連法令「無線設備規則」の改正を受け、旧規格のポータブルアンテナ及びワイヤレスマイクの備品チェックを行い、新規備品の整備を検討する。

4. 事業費の推移

事業費	単位	2年度	3年度	4年度	5年度
		決算	当初予算	決算	当初予算
国庫支出金	千円	0	0	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0
一般財源	千円	9,628	10,366	9,929	10,398
事業費	千円	9,628	10,366	9,929	10,398

5. 令和 3年度の実績及び成果

(1) 令和 3年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和 3年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> ・なつかしの映画を観る会(上映回数41回、入場者数397人) ・土曜子ども映画会(上映回数41回、入場者数68人) ・出前講座による館外上映会の実施(8回、152人) ・開放コーナー利用者(映画・音楽8,007人、ICT体験2,309人) ・大判プリンター利用(198回、244人) ・メディアセンター祭り(体験講座 9家族) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、休館や入場者数制限等の措置を行ったことによりなつかしの映画を観る会は上映回数や入場者数がわずかに減った。(R2:405人 R3:397人)しかし、出前講座による館外上映の希望が昨年2回38人から、8回152人に増えた。 ・シリーズ映画の上映を企画したことで、毎月継続的に来館し、鑑賞する入場者を確保することができた。 ・大判プリンターの利用回数は、昨年度よりも42回増えた。

事務事業 番号	02442	事務 事業名	メディアセンター管理運営事業	担当部	教育部
				担当課	メディアセンター

6. 振返り <SEE (check)>			
A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？	
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である	
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である	
	結びついていない	見直す必要がある	
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？	
	向上する余地はかなりある	影響がある	
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある	
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない	
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？	
	削減できない	削減できない	
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある	
	削減できる	削減できる	
D 公 平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？		
	公平・公正である		
	見直す必要がある		
総合評価判定基準		総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討		A	市民の教養や文化の向上を目指して、さまざまなメディア及び交流の場を提供するとともに、メディア学習活動を支援し、本市における生涯学習の振興を図る中核的施設である。今後も、時代の変化や市民のニーズに合ったメディアの整備を進め、充実させることで、市民へ学習しやすい環境を提供することが可能となる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan)> (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡 充			
	維 持			レ	
	縮 小				
	休廃止（統合含む）				
		皆 減	縮 小	維 持	拡 大
コスト投入（予算）の方向性					
(2) 令和4年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアセンター整備計画の推進と、計画的な機器更新を行う。 ・メディアセンターの利用促進を図るための各種イベントを充実させる。 ・WEB会議システム等を活用した研修会や講座、会議の実施について情報提供を行う。 ・パブリックディスプレイを活用して、世界、国内、地域の情報を発信する。 ・新しい生活様式に対応した利用ができるよう環境の改善や、WEB会議システムで活用できる機材（カメラ、マイク、スピーカー）の整備を検討する。 ・電波法関連法令「無線設備規則」の改正を受け、旧規格のポータブルアンプ及びワイヤレスマイクの備品チェックを行い、新規備品の整備を検討する。 				
(3) 令和5年度の方向性 (具体的な取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・「霧島市メディアセンター整備方針」を基にした計画的整備の推進と、施設や設備の適切な管理を行う。 ・これまで同様、チラシや広報誌、FMきりしま等を活用して広報を行うとともに、ホームページを改良し、上映作品紹介の他、サービス内容の変更や講座内容などの情報が利用者に伝わりやすいようにコンテンツの充実を図る。 ・市民のニーズに応じた映像作品の購入を計画的に行うとともに、県視聴覚ライブラリーから教材を借用し、充実を図る。 ・様々な研修会や会議等に対応するために、移動及び変形可能なテーブル・チェアとWEB会議システム等導入し、多様なニーズへの柔軟な対応を図る。 ・WITHコロナ時代における施設の安心・安全を確保するための対応を図る。 				

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者	職・氏名
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡 充	
	維 持		
	縮 小		
	休廃止（統合含む）		
		皆 減	縮 小
			維 持
			拡 大
コスト投入（予算）の方向性			
(2) 総評			

1. 基本情報						
事務事業番号	02445	事務事業名	メディアセンター研修事業	担当部	教育部	
担当課	メディアセンター			担当課長	安栖 賢一	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課長	安栖 賢一
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3071
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 平成 9年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
	目	09	メディアセンター費		根拠法令・条例等 霧島市メディアセンターの設置及び管理に関する条例等	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	特になし	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)
 市民を対象としたパソコンやスマートフォン、タブレット等に関する研修講座や、教育関係者を対象としたICT機器の活用やプログラミング、情報モラルに関する研修講座を開催し、市民が意欲を持って学ぶための学習環境づくりを行う。
【市民対象の講座】
 パソコン講座(基礎、ワード、エクセル、プログラミング等)、スマホ・タブレット活用講座、デジタル機器講座(デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ)、来所研修、自主グループの支援・育成
【教育関係者対象の研修】
 管理職情報教育研修講座、教育の情報化に関する研修講座(教材作成・プログラミング)、デジタル教科書活用及びICT機器活用研修講座、情報モラル講座

活動指標(事務事業の活動量)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)
ア 研修講座開催回数	回	28	38	29	40
イ 研修講座受講者数	人	182	200	240	300
ウ					

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)
ア 市民	人口	人	124,882	123,908	123,066	123,639
イ						
ウ						
意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(目標)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)
ア 意欲を持ってメディア及び情報機器が使えるようになる	研修内容等についておおむね満足した受講者の割合	%	75.20	76	73.20	76
イ						
ウ						

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)
 多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和3年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)
 ・講座の実施方法や実施時期について検討し、急な状況変化に対応できるよう体制を整え、市民のニーズに合った講座の開設を行う。
 ・WEB会議システムを活用した研修会を実施する。
 ・学校のICT環境の変化に対応した研修を実施する。
 ・学校教育課と連携しGIGAスクール構想の実現に対応するため、メディアセンター指導主事1名を学校教育課業務とする。

4. 事業費の推移

事業費	単位	2年度決算	3年度当初予算	3年度決算	4年度当初予算	5年度計画
国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	130	268	76	131	131
一般財源	千円	4,552	4,221	4,412	4,358	4,358
事業費	千円	4,682	4,489	4,488	4,489	4,489

5. 令和3年度の実績及び成果

(1) 令和3年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和3年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対応のため、38講座中8講座を中止した。 新型コロナウイルス感染症対策のため、受講者数を半数に減らし、机上にパーティションを設け、ソーシャルディスタンスを確保した。そのため、受講者同士が学び合う雰囲気はあまり作れなかったが、講座の終盤でお互いの作品紹介や鑑賞などは行った。 プログラミング教材MESHの活用を図る研修会や校内研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者数を減らしたため、きめ細かい支援を行うことができた。その結果、講座後に実施しているアンケート結果で受講者の94.6%が「今後のパソコン学習への取組」についての意欲が高まったと回答している。 学校を対象とし、情報教育担当者や管理職を対象とした情報研修会をオンラインで実施し、デジタル教材やオンラインにおける情報の共有についての理解を深めさせることができた。 プログラミング教材の活用方法への理解が進み、活用された。

事務事業 番号	02445	事務 事業名	メディアセンター研修事業	担当部	教育部
				担当課	メディアセンター

6. 振り返り <SEE (check) >		
A 目的 妥当性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	A	市民がSociety5.0社会における生活を豊かなものにしていくためには、メディアや情報機器等について学習することが必要不可欠である。市民が講座を受講し得た知識・技術を活用することは、便利なサービス等を楽しむことにもつながる。また、各学校の校内研修を支援しつつ、WEB会議システムを活用した研修会を実施することで、教職員のスキルアップに資することができる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡充			
	維持			レ	
	縮小				
	休廃止（統合含む）				
		皆減	縮小	維持	拡大
コスト投入（予算）の方向性					
(2) 令和4年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズの把握と、それに対応するための研修講座の内容等について検討し、申込者の増加を図る。 学校向けにGIGAスクール構想に基づいた「一人1台端末」の効果的な活用方法等についての研修を行う。 また、WEB会議システムを活用したオンライン会議やウェビナーに関する研修も充実させる。 				
(3) 令和5年度の方向性 (具体的な取組)	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズを的確に把握し、さらなる講座内容の精選を図る。 講座受講後の来所研修にも対応し、自主研修グループの発足・参加など自主的活動につながるような環境を整備する。 新しい機器や様々なソフト・アプリの使い方に関する講座の開設について見当する。 学校向けに、児童生徒の学力向上・教職員の指導力向上につながるようなICT活用の研修会や講座の実施について検討する。 				

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者	職・氏名
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡充	
	維持		
	縮小		
	休廃止（統合含む）		
		皆減	縮小 維持 拡大
コスト投入（予算）の方向性			
(2) 総評			

1. 基本情報						
事務事業番号	02446	事務事業名	視聴覚ライブラリー事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	メディアセンター
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3071
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和50年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
目	09	メディアセンター費		根拠法令・条例等	霧島市メディアセンターの設置及び管理に関する条例等	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	特になし	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>						
(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)						
視聴覚教材や機材を整備し、視聴サービスの提供や貸出しを行うことで、市民の学びを支援し、分かりやすく楽しい学習ができる環境をつくる。また、メディア(情報記録媒体、視聴覚ソフト等)を利用した自作視聴覚教材の制作を支援するとともに、市内の学校を対象とした自作視聴覚教材コンクールを開催する。 【教材】ビデオ教材、映写教材、録音教材 【機材】プロジェクター、スクリーン、ビデオデッキ、16ミリ映写機、パソコン、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ他						

活動指標 (事務事業の活動量)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (見込)	令和 4年度 (見込)	令和 5年度 (見込)
ア 教材保有数	本	1,654	1,660	1,633	1,637
イ 教材利用本数	本	298	300	319	310
ウ 機材利用台数	台	2,307	2,350	2,424	2,400

(2) 事務事業の目的						
対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標 (左記 対象の大きさを表す指標)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (見込)	令和 4年度 (見込)	令和 5年度 (見込)
ア 市民	人口	人	124,882	123,908	123,066	123,639
イ						
ウ						
意図 (対象をどうしたいのか)	成果指標 (左記 意図の達成度を表す指標)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (目標)	令和 4年度 (目標)	令和 5年度 (目標)
ア 視聴覚教材、機材を使用し、分かりやすく楽しい学習ができる。	教材利用者数	人	22,134	38,000	43,321	40,000
イ 視聴覚教材、機材を使用し、分かりやすく楽しい学習ができる。	機材利用者数	人	103,829	285,000	105,484	106,000
ウ						

(3) 総合計画との関係						
基本事業の目的、取組方針(総合計画より)						
多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。						

3. 前年度の評価表に記載した課題	
令和 3年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)	
・貸出数の多いプロジェクターや、外で利用する機会も多い音響アンプなどを中心に、定期的な点検を行う。 ・ハブリックディスプレイを活用したイベント紹介や、霧島市に関する映像の放映を行う。	

4. 事業費の推移		単位	2年度 決算	3年度 当初予算	3年度 決算	4年度 当初予算	5年度 計画
事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	177	198	171	198
事業費		千円	177	198	171	198	198

5. 令和 3年度の実績及び成果	
(1) 令和 3年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和 3年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
・人権に関する教材や寄贈された教材を追加した。 ・県視聴覚ライブラリーと連携し、毎月教材の借用を行った。 ・貸出可能な教材や機材について、学校間ネットワークを活用して情報提供を行った。 ・オンラインでの研修会や会議の増加に伴い、スピーカーフォンやビデオキャプチャー等の機材を購入した。	・視聴覚教材を借用して学習した人数が、R2は22134人だったのに対し、R3は、43321人と倍増した。 ・学校に対して、人権等の職員研修で活用できる映像教材のリストを提示したことにより、学校からの借用依頼が増えた。 ・県視聴覚ライブラリーと連携し、教材を充実させることで、学習者のニーズに応じた教材の貸出しを行うことができた。 ・市内や各学校において、オンライン研修や会議が増加したことで、それに必要な機材を購入し接続等について提案することで、貸出しの回数が増えた。

事務事業 番号	02446	事務 事業名	視聴覚ライブラリー事業	担当部	教育部
				担当課	メディアセンター

6. 振り返り <SEE (check) >

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	A	視聴覚教材の貸出しができるのは、著作権利用者団体に補償金を支払うことで合意した全国視聴覚教育連盟に加盟している視聴覚ライブラリー施設に限られており、霧島市内ではメディアセンターだけである。急速に変化する学校教育や社会教育の多様なニーズに対応するために、視聴覚教材や機材を充実させることは、市民の多様な学びを支援することにつながる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)

		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 (果)	拡 充			
		維 持			レ
		縮 小			
		休廃止（統合含む）			
			皆 減	縮 小	維 持
		コスト投入（予算）の方向性			
(2) 令和4年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)		<ul style="list-style-type: none"> 貸出数の多いプロジェクターや、外で利用する機会も多い音響アンプなどを中心に、定期的な点検を行う。 パブリックディスプレイを活用したイベント紹介や、霧島市に関する映像の放映を行う。 利用者の意向を把握し、計画的な教材の購入を行う。 			
(3) 令和5年度の方向性 (具体的な取組)		<ul style="list-style-type: none"> 貸出数の多いプロジェクターや音響アンプなどを始めとし、購入年度の古い機材を重点的に定期的な点検を行う。 パブリックディスプレイを活用したイベント紹介や、霧島市に関する映像の放映を行う。 利用者のオンライン研修等での機器の活用状況を把握し、機器購入の参考にする。 			

8. 2次評価結果 (担当部長評価)

						評価者	職・氏名	
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 (果)	拡 充						
		維 持						
		縮 小						
		休廃止（統合含む）						
			皆 減	縮 小	維 持		拡 大	
		コスト投入（予算）の方向性						
(2) 総評								

